

連峰 *Renpoh*

No. 336

発行日●平成 31 年 1 月 31 日

発行人●飯田メディカルヒルズ

編集 IMH 広報委員会

長野県飯田市毛賀 1707 番地

TEL 0265-26-8111 (代)

IMH基本方針(2019)発表 特集 地域医療研修



C 館 8 階レインボーホールからの眺望

目次

- P2 IMH (飯田メディカルヒルズ) グループ基本方針 (2019)
- P3 ~ P5 新医師臨床研修制度 ~地域医療研修~
- P5 出向勤務中 Dr. からひとこと
- P6 健康意識向上のために
- P6 医師 テレビ出演のお知らせ

IMH (飯田メディカルヒルズ) グループ基本方針 (2019)

院長 露久保 辰夫



☆人生 100 年時代を見据えた「保健・医療・福祉」の

三位一体体制のもと、より地域に密着したIMHを目指します。

- ・ 新たな健診センターのもとで健診体制の充実をはかり、地域の皆様のよりよい健康管理を目指します。
- ・ 地域の皆様が気軽に質の高い医療を受けられるように、「かかりつけ病院」としての機能の充実を目指します。
- ・ 地域の皆様ができるだけ住み慣れた場所で安心して過ごせるよう、在宅診療体制の充実を目指します。
- ・ 高齢化した透析患者さんが、安心して透析治療を続けられるような透析医療体制の充実を目指します。
- ・ 最新の情報を取り入れた質の高いリハビリテーションを提供し、飯伊地区のリハビリのレベルアップを目指します。

厳しい寒さが続いていますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。当院では毎年年初頭にあたり、その年の基本方針というものを策定しています。その「基本方針(2019)」についてご説明したいと思います。

団塊の世代の方々が後期高齢者になる 2025 年問題が注目されて久しくなりますが、2025 年は高齢化への入口に過ぎず、その後 2045 年にかけて人口減少と高齢化が一層進むことが予想されています。国立社会保障・人口問題研究所が 2015 年の国勢調査結果を基に算出した将来の人口推計結果によると、飯伊医療圏の人口は 2025 年までに約 1.5 万人減少、その後も減少を続け、2045 年には約 4.6 万人減の約 11.6 万人となるという結果が出ています。

加えて、少子高齢化の進行により、高齢化率は 2015 年の約 35% から、2025 年は約 36%、2045 年には約 42% となることも予想されています。特に深刻な問題は生産年齢人口の減少で、2045 年には 1.5 人の現役世代が 1 人の高齢者を支えなければならなくなり、まさに人生 100 年時代に突入します。

このように高齢化率は上がっているものの、就業者に何歳まで働きたいかというアンケートをとると、70 歳以上になっても働き続けたいと回答する方が 3 割以上いる結果が出ております。高齢になっても働き続けたい方にとって、やはり普段の健康管理が重要となります。当グループでは今年、新たな健診センターが稼動する予定です。

以上の様な社会情勢を踏まえて、今年の基本方針を策定いたしました。みなさま、今年もよろしくお願い申し上げます。

新医師臨床研修制度 ～地域医療研修～

医師 清水 康裕



平成 16 年から開始された新医師臨床研修制度 (※ 1) は、努力規定であった制度が必修化となり、地域医療に関わることがプログラムの中に組み込まれ、当院でも新制度滑り出しから地域医療の研修を積極的に受け入れてきました。

今年度は、ここ数年毎年研修に来ていただく飯田市立病院から 2 名、数年振りの名古屋東部医療センターから 1 ヶ月研修で 1 名、信州大学医学部附属病院からは初めて 1 名と、計 4 名のフレッシュな先生方が当院で研修をされました。

私が大学病院で研修医として勤務しておりました 20 数年前は、地域医療の研修がない時代でした。従って、その時にどんなことを学びたかったかを回想しながら、また研修に来られた先生方の将来に役立つような知識の習得や経験をしていただけるよう、カリキュラムを考え、当院医師をはじめとするスタッフの協力のもと、今年度も無事に研修終了となりました。



※ 1 新医師臨床研修制度は、より良い医師の育成と、研修医の勤務環境の整備などを主目的として発足した制度です。

最近では、数年前に当院へ研修に来られた先生に休日の当直業務に入っていただく機会も増えました。今年度研修された先生方ともそんな繋がりが今後あるかもしれません。いつかお会いした時、印象的な研修だったと言っていたけるよう、これからも奮励したいと思います。

研修を終えた先生方の感想をご紹介します。

飯田市立病院 研修医 荻山 めぐみ



月曜日の朝礼で院歌斉唱から始まった 1 週間は、毎日が新しいこととの出会い、驚きの連続でした。これまで自分が携わっていた医療は、医療の中のほんの一部でしかないと痛感しました。

回復期リハビリ病棟では、カンファレンス以外でも他職種同士での情報共有がこまめに行われているなあと感じました。バランス練習アシストロボット BEAR (図 1) を体験したり、嚥下内視鏡や嚥下造影検査に関わったり、義肢装具の型取りを見学するなど、貴重な経験になりました。



図 1

バランス練習アシストロボット BEAR

訪問診療では、患者さんがどのように暮らしているか自分の目で見ることで、ゆっくり時間をかけてご家族の話にも耳を傾けることの大切さを感じ、患者さんのほっとした表情が印象的でした。

疾患をどう治すかではなく、患者さんがこれから生活していくために私たちに何ができるかという、先生方をはじめスタッフの皆様の考え方がとても素敵だと思いました。短期間でしたが、研修を通して、自分自身の視野を広げることができたと感じています。急性期、回復期など病院ごとに役割は異なりますが、将来どこで働くときにも、患者さんの背景を意識する姿勢をずっと持ち続けていきたいです。

ありがとうございました。

新医師臨床研修制度～地域医療研修～

信州大学附属病院 研修医 小林 健太郎



地域医療研修として1週間研修させていただきました。

リハビリ科では回復期病棟の患者さんの診療に付き添いをさせてもらったり、リハビリを行っている様子を見学したりしました。大勢のリハスタッフを統括するリハビリ医の役目をカンファレンスやディスカッションを通じて学びました。

訪問診療・訪問リハで患者さんのお宅を車で訪問したときは、飯田市中心部だけでなく、飯田市東部の山間部にも伺い、坂や起伏が非常に多い地形ならではの生活スタイルがあるのだと感じました。夏の暑い時期の研修だったこともあり、患者さんや介護されているご家族が自宅でどのように過ごされているか、涼しい病院とはまた違った視点で感じることができました。

私は長野市の出身で、飯伊地区の医療機関を見学・研修させていただくのは今回が初めてでした。今回この地域の文化的・地理的な特徴を知ることができ非常に参考になりました。また親切な病院のスタッフの皆様、心温かい飯田下伊那地域住民の方々と交流し、将来自分もこの地区の診療に携わることができればいいだろうと感じました。



飯田市立病院 研修医 森川 大樹



こんにちは。飯田市立病院初期研修医の森川大樹と申します。今回、地域医療研修として1週間お世話になりました。市立病院では主に急性期患者の診療を行っていますが、治療を終えて自宅退院、転院した患者さんの退院後の生活について知る機会は、あまりありませんでした。

今回の研修で、脳神経、整形外科疾患をはじめとした様々な患者さんと接しました。同じ疾患の患者さんであっても、後遺症の程度、生活環境や家族構成が大きく異なり、それぞれに合わせた支援を多職種で連携して行なっている様子を見ることができました。どのようにして元の生活により近づけられるか、その人や家族にとってより良い形が何か考え、より理想的な環境を作るスタッフの努力や熱意を感じました。

一方で、理想と現実のギャップの中で、より「許容できる」内容を模索せざるを得ない難しさも感じました。今回の経験を活かし、患者さんや家族の退院後の生活も考えながら飯田市立病院での研修を続けていきたいと思っています。

短い期間でしたが、土屋理事長、清水先生をはじめとする先生方、関係各所のスタッフの方々に大変お世話になりました。ありがとうございました。



新医師臨床研修制度～地域医療研修～

名古屋市立東部医療センター 研修医 山城 恵美



はじめまして。名古屋市立東部医療センター研修医の山城恵美です。今回、地域医療研修として1ヶ月間研修をさせて頂きました。はじめての土地でドキドキしながらスタートした研修は、朝礼でさらに緊張が増しました。私が働いている病院では職員全員が集まる機会は少なく、大変衝撃を受けました。

朝礼だけでなく、日々のカンファレンスで患者さんに関わるスタッフみんなで話し合いながら、何ができるかを考えて治療を行っている様子を見て、“病氣”ではなく、患者さんと向き合い、患者さんの背景まで考慮した医療を行うということの大切さを改めて認識しました。

朝礼、訪問診療、リハビリテーションと、初めてづくしの1ヶ月でしたが、私が普段従事している急性期疾患の診断・治療は患者さんの人生のほんの一部であり、患者さんのライフスタイル、ご家族や周りの環境に応じて様々な医療があることを学び、患者さんの生活を親身に考えるスタッフがいて初めて医療が成り立っているのだと、この病院で見た数々の笑顔によって実感しました。

お忙しい中ご指導頂いた輝山会記念病院の職員の皆様、暖かく迎えて下さった地域の方々に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



出向勤務中 Dr. からひとこと

藤田医科大学 波多野 和樹

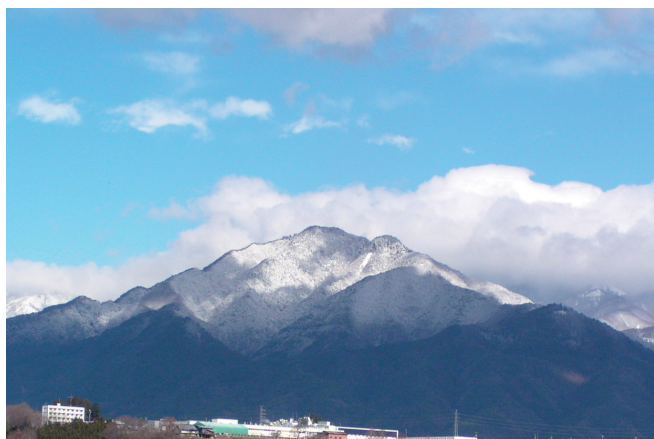


藤田医科大学（2018年10月より藤田保健衛生大学から藤田医科大学に名称変更）より参りました、波多野和樹と申します。リハビリテーション科を専攻しております。昨年度より非常勤で勤務させて頂いており、今年度は常勤として一年間勤務させて頂いております。飯田市は初めてですが自然環境豊かで美味しい食べ物にも恵まれ、とても住みやすい地域だと感じております。

また、輝山会記念病院は地域密着の総合病院として南信地域の総合診療を支える役割を担っています。

そのため、当院の先生方については各診療科のスペシャリストでありながら総合的に患者様の全身管理ができるジェネラリストでもあります。そんな先生方に負けぬよう私もリハビリテーションだけでなく、全身を診られる医師になるべく日々精進したいと思います。

勤務期間は残りわずかとなりますが、南信地域の皆様の医療を支えられるよう頑張りますので、宜しくお願いいたします。



健康意識向上のために

管理栄養士 早川 千尋



株式会社 技建開発様に於いて社員の方々への安全衛生研修が開催され、当院健診センタースタッフが安全衛生について話をさせていただきました。当日は代表取締役様をはじめ、135名の社員の方々が参加され、男性が多く20代～60代と年齢層の幅が広い印象でした。

はじめに当センター室長 今村より“健診統計とたばこについて”の話がありました。喫煙をしているとメタボリックシンドローム（以下「メタボ」と言う）や生活習慣病にかかりやすく、要介護の原因にもなると言われており、禁煙が勧められています。全国的にも喫煙者率は下がってきており、健康寿命をのばすために禁煙は重要であるため、今後も禁煙を勧めていきたいと思えます。

次に管理栄養士 中村より“メタボを中心とした生活習慣病について”の話がありました。外食でのメニューの選び方などいくつか質問させていただき中、皆様悩まれながらも楽しみながら挙手されている印象でした。今後の食事の参考にさせていただき、健康意識が高まれば幸いです。

今後もこのような活動を通して地域の皆様の健康維持・増進に貢献してまいります。



★ 医師 テレビ出演のお知らせ ★

当院内科医長 下平 隆寛 医師 がテレビに出演します。

- 番組名 テレビ信州
(4チャンネル)



- テーマ 「胃がん・大腸がん検診」
- 放送日 平成31年2月18日（月）～22日（金）
- 時間 午前11時50分～11時55分

是非ご覧ください！

